EVERYBODY LOVES KOBE GAKUIN vol.32

独自の防災教育で、目指すは世界の減災

人文学部准教授
船木 伸江
Nobue Funaki

強い防災マインドを持った市民を増やしたい

阪神・淡路大震災を経験した神戸学院大学ならではの学部横断型教育プログラムが学際教育機構のひとつ「防災・社会貢献ユニット」。担当教員の一人、船木伸江准教授（人文学部）は地域と連携し、学生と共に「防災教育を軸とした減災プランの推進」に取り組んでいます。

主な活動は、救急インストラクターの資格を取得した学生が、神戸市の学校や市民に応急手当などを指導する「市民救命士講習」や、地元の幼稚園、小中学校で行う防災などに関する出前授業。

「学生が積極的に地域に出て行き、大学で学んだことを地域の人に伝える。そして地域の人にも教えていただくという〝アクティブラーニング〟の一環です。学生には知識だけでなく、その知識の生かし方も同時に教えたい」と船木准教授。学生も一人の市民であり、やがて社会に出て働き、家庭を持ちます。「彼らの防災に関する知識や知恵が増すということは、防災マインドを持った市民が増えていくということ。結果として減災にもつながると考えています」

プロジェクトがスタートして8年目。神戸学院大学の防災教育は、広く市民に周知されるようになりました。また学生たちの活動がメディアなどで紹介される機会も増え、活動の評判が口コミでも各地の学校に伝わることで、特に「出前授業」を希望する幼稚園、小中学校が増えているといいます。人気が高いのが学生たちによる「防災レンジャー」の防災教室。一緒に体を動かしながら、地震や火災、津波などの災害に応じた避難の動きなどを楽しく学んでもらうというプログラムで「子どもたちはレンジャーに夢中で、反応は非常に良いようです」

また学生が発案したカードゲーム「非常持ち出しぶくろを考えてみよう！」も、子どもたちに大人気だといいます。帽子、チョコレート、タオル、ウェットティッシュ、水など36種類のイラストカードが用意され、非常持ち出しぶくろに何を入れておけば良いのかをゲームで子どもたちに考えてもらおうというもの。学校や地域からの問い合わせも多いそうです。

防災をより深く学べるよう学部教育として拡充

熱心に活動に取り組む学生たちの成長は著しく、「一年ごとに頼もしくなっていきますね。現場での予期せぬ事態にも、知識や体験の積み重ねにより頭の切り替えが早くなっています。地域で培われたコミュニケーション力などは今後、どのような進路においても役立つと思っています」

この「防災・社会貢献ユニット」は2014年度から、現代社会学部社会防災学科の学部教育として拡充される。「4年間の教育プログラムとなることで学べる専門分野も広がり、一つひとつの分野も、より掘り下げて追究できるようになります」

今後の大きな目標は、地域の知恵を共有し、日本から世界へと地球規模の防災力を向上させていくこと。そのためにも「若い人たちによる防災教育の新しいアイデアが欲しいですね。高齢の方たちだけでなく、若い人たちも参加したくなるような斬新な講習会の仕掛けなども、ぜひ考えていただきたいです」

避難の際に何を持ち出すか、36種類の中から9種類を選び、マス目の中に置いていくカードゲーム「非常持ち出しぶくろを考えてみよう！」

夢へのチャレンジが、未来を創る
神戸学院大学
法学部 経済学部 経営学部 人文学部 総合リハビリテーション学部 栄養学部 薬学部 大学院

現代社会学部 現代社会学科 社会防災学科
2014年4月開設（設置認可）
学びの舞台はポートアイランドキャンパス
●有瀬キャンパス●ポートアイランドキャンパス●長田キャンパス（法科大学院）
神戸市西区伊川谷町有瀬518 TEL：078（974）1551㈹ www.kobegakuin.ac.jp/